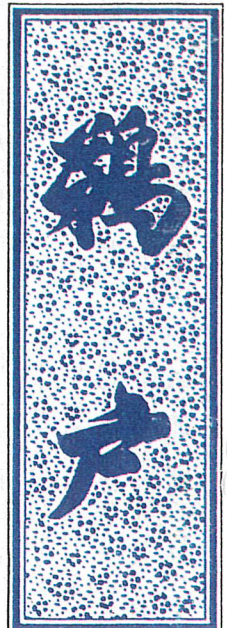




昭和天皇御親拝  
昭和四十八年四月十一日



発行者兼編集者  
鵜 戸 神 宮  
社 務 所  
印刷所  
西 日 本 印 刷



今上陛下御親拝  
昭和五十四年九月十六日

# 昭和天皇を偲ぶ



宮司 佐師朝規

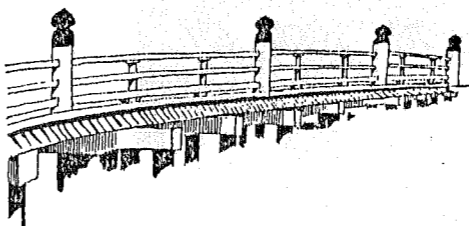
長くも昭和天皇におかせられましては、吹上御所において、一月七日午前六時三十三分崩御遊ばされましたことは、誠に恐懼哀悼の極みであります。昨年九月十九日深夜御容態御急変以来、当神宮に於きましても、一日も早い御快癒をと、毎朝熱禱を致してまいりましたが、崩御の悲報に接し、謹んで奉悼の誠を捧げ奉ります。

位も歴代天皇のなかで六十二年と最も長く、国民とともに苦難と繁栄の道を歩まれました。昭和三年十一月十日、京都御所にて「即位の礼」が行なわれ、「永く世界の平和を保ち、あまねく人類の福祉を益さんことをこいねがう」と勅語を発せられ、十一月十四日には大嘗祭が行なわれたのです。心ならずも勃発した先の大戦の終結に際して「朕が身は如何にならうとも、是以上戦争を継続して、国民の苦しむを見るに忍びず」と宣せられ、昭和二十年八

月十五日正午終戦の大詔を発せられました。終戦直後の九月二十七日マッカーサー元帥との会見において、陛下の無私なる御心にいたく心を打たれ感動した元帥は「陛下ほど、自然そのままの純真な、かつ善良な方を見たことがない。実に立派なお人柄である」と言っています。そしてその後の占領政策において大きな影響を与えた事はいうまでもありません。もし、かりに連合国が皇室を倒していたらどうなっていたでしょうか。「天皇を戦争犯罪人として裁こうとするなら、百万の軍隊の無期限駐留を必要とするに違いない」とマッカーサーが言っているように、日本国内は乱闘が続き復興どころではなかったと思われまます。そして昭和二十一年より戦後の荒廃した全国各地を御巡幸され、国民を励まされ祖国復興の勇氣をお与えになり、その結果、今日の日本があるものと思われまます。

昭和天皇の崩御に伴い激動の昭和は終りを告げ、直ちに皇太子継宮明仁親王殿下が踐祚遊ばされ、第一百一十五代の天皇の御位に即かせられ「平成」の大御代をお開らきになられました。顧みますれば、昭和天皇には二回、今上天皇も二回当神宮へ御親拝あらされていきます。昭和天皇は大正九年三月二十九日皇太子時代に御参拝になり、昭和四十八年四月十一日には第二十四回全国植樹祭に御臨席の御皇太后陛下と御参拝いただき、昭和二十四年、三十三年の御巡幸の折には幣饗料を、昭和四十二年社殿改修にあたり御幣金を賜りました。今上天皇には昭和三十七年五月四日新婚旅行の御昭和五十四年九月宮崎国体御臨席の御、皇后陛下と御参拝になり、このことは深い悲しみのなかにも神宮と致しましては無上の慶びとするものであります。

対しては敬意を表したいと思ひます。しかし来年執行なされる即位の礼、大嘗祭が伝統にのっとり国事行為として行なわれるよう念願致し、今こそ皆がこれにとりくまなくてはならない時期ではないかと思われまます。



# 昭和天皇御葬列お見送りに参列して

権祿宜 河野博文

平成元年二月二十三日、この日は朝から小雨が降りとても寒い一日だった。窓の外の景色はいつもとかわらないのだろうが、私達の気持ちと同じように何か悲し

げな感じさせられた。朝食をすませタクシーで神社本庁へと向かった。外の様子を覗いてみると、ここが本場に東京なのだろうかと思うくらいに、ひっそりと静まり



武蔵陵墓地へ迎う轎車

かえり車はまったく走っておらず道行く人も殆んどいなかった。見当るのは各交差点ごとに置かれてあるバリケードと警備にあたってある警官の姿だけだった。神社本庁に着くと既に全国各地からお見送りに参列される神職の方々が来られていた。肩を落されているのが一目でわかった。なかでも高齢の神職の方々は、昭和天皇と御一緒に激動の昭和を生きて来られただけに、いっそう悲しみが体全体に表われているように感じた。定刻の時間となり、私達はお見送りをする場所まで移動することになった。外に出ると朝からの雨はまだ降り続いていた。私達は十分ぐらい歩いてお見送り場所の新宿駅南口前につき、整列して御葬列をお待ち申し上げた。一般の方々はまだ数える程の人数しか見受けられなかったが、時間が刻々と経つにつれて私達の回りの人の数がしだいに多くなり、傘をさしていることさえ出来ない状態となった。それから一時間ぐらいたった頃だろうか警官の動き

立っている左手の方から昭和天皇の靈柩を載せた轎車を中心とした御葬列が見えてきた。ゆっくりとしたスピードで進んで来る御葬列の轎車が近づくと、今までさされてきた傘はみんなとじられ、子供からお年寄りまで冷たい雨にうたれながらも轎車を一心に拝む姿に、私の心は強く打たれるものがあった。御葬列が通りすぎる時間はほんの何分間ではあったが、この光景に日本人の天皇を敬う心をかいま見たような気がした。私も轎車が近づくとつれてそれまでの寒さも忘れてしまい、全員で黙禱をさされた時には涙が頬をためどもなく流れた。御葬列は私達のお見送りの場所からゆっくりと武蔵陵墓地へと進んで行った。

例年ならば奉祝行事として四半的弓道大会が開催され、歓声があちこちから聞こえるのだが中止となった為、もの静かな一日であった。又、県内の剣道大会として是最多チームの参加がある剣法発祥鶴戸山顕彰剣道大会も中止となった。

# 例祭斎行

二月一日午前十一時より当神宮例大祭が厳肅に斎行されたが、昭和天皇の御大喪期間中であり本庁通達により献幣使の参向はなく本庁幣のみが献奉られた。当日は、あいにくの曇り空ではあったが、責任役員、氏子、崇敬者総代、五神宮(英彦山、霧島、鹿兒島、宮崎)宮司、県内外神社宮司、官公庁関係、日南市、北郷町、南郷町各地区々長、敬神婦人会、全国各地の崇敬者等多数の参列を賜った。式典には、今年で三年目ではあるが舞楽「蘭陵王」が神宮の神職によって奉納された。

# 「大嘗祭」パンフレット作成

何故このパンフレット(当神宮印刷)を作成したのかと申しますと、一般の人々は「大嘗祭」の読み方も知らなければ、来年行なわれるというとも分らないのが現状だと思えます。このことを知っているのは神社界を除けば、ごく一部の人間であり、この様なことでは大嘗祭が国民の盛り上がりにつけたいまま行なわれる可能性がありません。もしそうならば「皇室の尊厳を高める」という私達の使命に大きなかけりを生ずるかもしれません。

そこで少しでも多くの人に来年、皇位継承の中でも最も重要な大嘗祭が行なわれるということだけでもまず知っておいていただきたいと思います。

現在、政府も政治的混乱に陥っているさなかであり、今こそ神社界が立ち上がりなければならぬ時だと思えます。

日本の皇位継承儀礼の中核をなす大嘗祭に就いて

皇位の継承儀礼には、禊祓の儀、即位の礼、大嘗祭の三つの中心的な儀礼があります。

昭和天皇の崩御に伴ない、皇太子明仁親王殿下が直ちに踐祚(皇位を継がれる事)され第百二十五代の天皇の御位につかれました。皇位を継がれた陛下は、天皇の御位とともに受け継がれてきた神剣と宝璽(まがたまの事)の神器をお受けになられました。(一月七日テレビ中継の剣璽等承継の儀)この神器の継承を中心とした儀式が踐祚の儀であり、そして来年喪があげてから行なわれるのが、即位の礼、大嘗祭であります。

即位の礼とは、天皇が即位したことを天照大神をはじめとする皇室の祖靈に奉告し、同時に国民にも宣言

される儀式であります。天皇が初めて皇位におきになる儀式ではなく、皇位に即かれてから即位の旨を公に示すための儀式です。

大嘗祭とは、皇位継承の中で不可欠な儀礼とされています。日本は古来より「瑞穂国」すなわち豊かな稲の実りのある国とたたえられ、日本人の生活は稲作と切っても切れないものがあります。年の始めには豊作を祈る祈年祭が行なわれ、秋には新穀の収穫に際してそれを神々に捧げて感謝し、来年の豊作を祈る新嘗祭が行なわれます。

皇室においても、古来より皇位を継いだ天皇の最も大切な務めの一つが祭祀であり、その自ら行う年毎の神事の中で最も重要な祭が大嘗祭です。天皇陛下が日本最高の祭り主と呼ばれるゆえんもここにあるのです。この祭は天皇が新穀を天照大神を始め、天地の神々に供えて神恩に感謝し自らも召しあがられることに本質があり毎年行なわれます。大嘗祭は天皇即位後初めて行なわれる新嘗祭のことであり、一世一度の最も重

要な儀礼であります。何故なら天皇が初めて新穀を自らも召しあがれることにより、天照大神様の靈威を身につけられ、天皇としてのいのちを得られるからです。そして新穀を毎年召しあがれることにより靈威の更新をはかれるのが新嘗祭であります。

大嘗祭の起源は、はっきり分りませんが文献上では第四十代天武天皇の御代(飛鳥時代)からであるとされています。これから見ると、今日まで少なくとも千数百年にもわたり、守り伝えられているのです。このことから大嘗祭は日本で最も意義深く、日本の祭の本源の姿を伝えているといえます。アメリカの著名な神道学者ホルトムは、「大嘗祭が複雑で多彩な部分から成り立ち、また人類学的研究への示唆に富むという点では、おそらく世界の即位式史中全く他に例を見ないものである。これは正しくこの国の歴史の正当な文化遺産の一部をなすものである。これを単なる個人的あるいは宗派的意味しか持たぬ形式に変えてしま

うことは出来ない。」と述べています。

私達はこの大嘗祭が日本文化の根底をなしていることを充分認識し保存していかなければならないと思えます。そして来年執り行なわれる大嘗祭が伝統通り行なわれるよう根強い運動を展開していかなければならないと思えます。

## 巖かに先賢慰霊祭

別当宮司先賢慰霊祭の斎行された五月十九日は、生憎の雨となり、祭場を鵜戸山別当墓地より当神宮儀式殿にうつし、歴代別当宮司遺族、責任役員、氏子総代をはじめ多数の参列者のなか、しめやかに斎行された。

この祭は、当神宮特殊神事の一つに数えられ、古例により現在も神仏合同慰霊祭として執り行なわれている。宮司の祝詞奏上の後、願就壽寺住職伊勢木俊真氏外、二名の僧侶が経を奏した後、御詠歌などの法要がいとな

## 新役員・氏子総代が決定

当神宮では、去る五月二十一日氏子総代会、二十三日崇敬者総代会を開催し、任期満了に伴う責任役員の変更を行った。なお、氏子総代もこれに先立ち各地区において総会が開かれ改選が行なわれた。

その結果、左記の方々が選ばれ委嘱式が行われた。任期はそれぞれ三年である。

### 責任役員

- 川越国雄、細田純市、高橋良則、田中 静
- 関屋武義、安藤喜俊
- 鬼束達朗、津田宗治
- 氏子総代
- 長谷川裕師、品村宗利
- 河野 孝、長友治義
- 愛甲 遵、江口義雄
- 湯浅力馬、関屋寿美男
- 関屋利光、品原和雄
- 増竹義也、水元福美

今回よりシリーズで鵜戸山玄深記を掲載していきます。これは江戸時代の慶應三年に五十九世別當觀空が書いたものであります。

## 鵜戸山玄深記

夫當山ハ摠躰磐石ヲ以自然ニ成スル處之靈地ナリ其山之地形亦法然トシテ阿字ノ姿ナリ是則三世常恒不可破壊ナル阿字堅固之德體ナリ然レハ末法萬年之末ヨリ只今末法萬年之始也彌勒菩薩出世之曉ニ至ルマテ五十七億六百萬歳之間モ此山ハ常ニ堅固ニシテ益々神靈之刹土ト成ナリ一切衆生ヲ惠ミ給フト見ヘタリ彼弘法大師之如キ即身成佛留身之聖者達モ亦此山ニ來テ五十七億六百萬歳間諸神ト共ニ密法之利益有ルナラン去レハ末法万年ヲ過テハ一切之諸大乘教皆悉滅盡シテ方佛法教益有ルコトナシ亦順之世間之俗教無キ事ヲ知ルヘシ雖然此眞言密法之深意ハ彼顯教ノ如ク像末之沙汰無フシテ秘密之大益アル事野山名靈集及探深記等ニ演ルカコトシ

所謂當山ハ金剛磐石之取成ニシテ而モ亦阿字之形アリ是則金剛界胎藏界不二密教相應之靈地也西域記意ニ云昔釋迦如來正覺山ニ登テ金剛定ニ入り給ヒシ時山地大ニ震動セリ後淨居之天人之導キニテ菩提樹林ニ至リ金剛寶座ニ座シ玉ヒシカハ山更ニ動カス安淨ニシテ入定シ玉ヘリ栴此金剛寶座トハ昔此世界成立セシトキ大地ト共ニ起テ下金輪ヲ極メ上地際ニ至ル則金剛之取成也故ニ堅劫之千佛是ニ座シテ金剛定ニ入玉フ若金剛ヲ以テ成スル之地ニ非スンハ必ス傾動シテ定身之重キヲ乘スル事アタハシト云又清辨菩薩真言ヲ修シテ石窟開キ阿修羅之宮殿ニ入テ生身ヲ留メ彌勒之下生ヲ待ト云ヘリ然モ大師ノ入定ニ及事ハ名靈集ニ述ルカ如シ是ヲ以テ案スルニ彼地神之御神達當山之石窟ニ數萬歳座玉フ事誠ニ以由有哉此石窟ニ鎮座奉ル六社大權現之内ニ天照太神ヲ第一座トシテ相殿ニ坐シ玉フ此天照大神トハ葦原ノ中津國八百萬神本源ニシテ則本地ハ大日如來ニテ坐ス也此大日如來トハ諸佛ノ之本地三世常恒不生不滅之佛身ナル故ニ所說之真言等モ亦是法尔常恒ニシテ一切佛法之本躰也

惟ルニ當山石窟之形並ニ反橋ヨリ石窟之前ヘニ至ル處之道之姿自然亦阿字之形ニ似タリ愚

案ニ石窟之内ハ常ニ空寂トシテ正ニ阿字不生  
 理味、仍テ窟内窟外如ク、弘字「ア」之跡ニシテ  
 則金胎不二之靈窟也亦常ニ寂々タルハ阿字胎  
 藏界之理也此寂靜タル石窟ニ諸人詣テ現ニ  
 神験ヲ得ルハ鏡字金剛界之智用也故ニ金胎不  
 二識身一跡、道理ニ非サレハ一切成就難シ也因ニ  
 今日之人身ニ約シテ是ヲ云ハハ色身ハ則阿字  
 之跡也心識ハ則鏡字之跡也此色心不二スルニ  
 依テ既ニ人跡成立シテ眼耳鼻舌等之作用有テ  
 人身動揺スルナリ雖然、凡夫ハ色心不二之觀行  
 惠成就セザル故ニ此ノ人跡ニ詫スル處之鏡字ノ  
 心識飛去ル時ハ阿字之色跡、而已殘テ色心各別  
 之跡ト成ルナリ一切有情皆以テ如此、然ルニ弘法  
 大師之如キ三地、之薩埵ハ色心不二金胎不二即  
 事而眞法界ト人身ト一跡不二之極理ニ通達シ  
 覺語シテ正ニ父母所生、之身ヲ改メス即身ニ成  
 佛シ玉ヒ紀州高野山金剛定室ニ於テ留身之聖  
 者トナリ彌勒龍花會之暁ヲ待給フ事寔ニ以テ  
 有難キコトナリ

- ① 阿字 — (阿は梵語の第一字母) 象徴的には万物の不  
 生不滅の原理を表現する。
- ② 末法 — 釈尊入滅後の仏教流布の期間を三区分したそ  
 の一。普通には像法(ぞうほ)の後の一万年  
 をさし、仏の教えがすたれた教法のみが残る  
 時期とされる。
- ③ 刹土 — (刹は梵語の音写・漢訳は土) 国。国土。

- ④ 衆生 — 多くの生物。生きているものすべて。多くの  
 人々。
- ⑤ 即身成佛 — 人間がこの肉身のままで仏になること。眞言  
 宗で、この肉身のままで大日法身を現に証す  
 ること。
- ⑥ 大乘 — すべての衆生を救済して仏陀の境地にまで導  
 くことを理想とする仏教の傾向。
- ⑦ 顯教 — 衆生の機に応じて言葉であらさまに説かれ  
 た教え。法相・天台・華嚴宗など。
- ⑧ 金剛界 — 大日如来を智徳の方面から開示した部門。大  
 日如来内証の智徳は堅固で一切の煩惱を摧破  
 するからいう。
- ⑨ 胎藏界 — 密教で説く両部法門の一。大日如来慈悲の方  
 面から説いた部門。
- ⑩ 金剛寶座 — 金剛でできている宝座。即ち釈尊成仏の座処。  
 四輪の一。大地の下にあつて世界を支え持っ  
 ているという四個の大輪。即ち風輪・水輪・  
 金輪・空輪。
- ⑪ 千佛 — 過去・現在・未来の三劫の各々に出現すると  
 いう一千の仏。また特に現在劫の千仏。釈尊  
 はその第四番目の仏という。
- ⑫ 不生不滅 — (生じもせず、滅びもせず常住であること)  
 即ち眞如実相の存在、涅槃の境界をいう。
- ⑬ 梵 — 梵字の中の一。
- ⑭ 空寂 — 万物は皆実体なく空であるということ。
- ⑮ 弘 — 梵字の中の一。
- ⑯ 色身 — 有形の肉体。
- ⑰ 色心 — 有形の物質と無形の世界。
- ⑱ 薩埵 — 仏につぐ位置。即ち大勇猛心を以て菩提即ち  
 仏道を求め大慈悲を以て衆生を済ふ人。菩薩
- ⑳ 眞法 — 眞如(万物に備わる、永久不変の眞理)・実徳

### 敬神婦人会 新役員決定

去る五月二十九日、当神  
 宮に於て敬神婦人会の総会  
 を開催し、役員改選の結果、  
 左記の方々が新役員に選ば  
 れた。

- 記
- 会 長 富澤節子(屋倉)
  - 副 会 長 高妻久子(星倉)
  - “ 崎村カナ子(目  
 井津)
  - 書記会計 外山信子(鶉戸)

## 社務日誌抄

- 昭和六十四年
- 一月一日 歳旦祭
- 一月三日 元始祭
- 一月七日 天皇陛下崩御奉  
 告祭
- 平成元年
- 一月八日 踐祚改元奉告祭
- 一月十日〜一月十二日  
 五神宮宮司会申意記帳参  
 内の為宮司皇居へ出向
- 一月二十日〜一月二十一日  
 九州別表神社宮司会の為  
 宮司熊本県へ出向
- 一月二十六日 九州管区警  
 察局長警視監鳴海国博氏  
 参拝
- 二月一日 例祭
- 二月六日 富山県警察本部  
 交通部長警視正菊池氏参  
 拝
- 二月十一日 紀元祭
- “ 大分県富尾神  
 社宮司他氏子三十名神樂  
 奉納
- 二月十二日 国務大臣坂本  
 親男氏参拝
- 二月十三日 天岩戸神社宮  
 司佐藤宣久氏葬儀参列の  
 為宮司出向
- 二月十五日 鶉戸稻荷神社  
 例祭
- 二月十六日 広島東洋カー  
 プ必勝祈願祭
- 二月十七日 祈年祭
- 二月十九日〜二月二十一日  
 神社社会計務指導者九州  
 地区研修会参加の為永友  
 権弥宜熊本へ出向
- 二月二十二日〜二月二十四日  
 昭和天皇御葬列御見送り  
 の為三輪弥宜河野主典東  
 京へ出向



富尾神社 神樂奉納

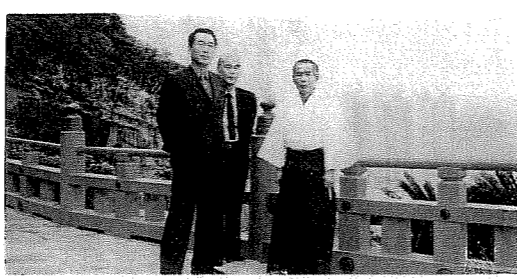
- 三月九日 新潟県平潟神社  
 宮司桃田勇夫氏他二十四  
 名参拝
- 三月十日 岩手県八雲神社  
 宮司佐々木氏他二十二名  
 参拝
- 三月十八日〜三月十九日  
 昭和天皇御陵参拝の為三  
 輪弥宜、伊東権弥東京  
 へ出向
- 三月二十日 宮内庁桃山陵  
 墓監区事務所陵墓監三木  
 宏和氏他一名参拝



広島東洋カープ必勝祈願祭

- 三月二十四日 昭和天皇遙  
 拜式
- 三月二日 今山八幡宮宮司  
 岩切重信氏他四名参拝
- 三月二十三日 役員会、駐  
 車場竣工祭
- 三月二十六日 シャンジャ  
 ン馬道中新婚五組参拝
- 三月二十九日 熊本国税局  
 長人見勉氏他三名参拝
- 四月四日 宮崎県知事松形  
 祐堯氏他四名参拝
- 四月五日〜六日 神社と消  
 費税講習会出席のため谷  
 口弥宜神社本庁へ出向
- 四月十二日 九州管区警察  
 学校長警視長橋之口求氏  
 他二名参拝
- 四月十三日 九州管区警察  
 局長警視監三上和幸氏他  
 四名参拝
- 四月二十一日 鳥取県助澤  
 神社宮司芦立守正氏他氏  
 子十八名参拝
- 四月二十七日 役員会
- 五月一日 氏子、崇敬者総  
 代会
- 五月三日 京都皆本幹雄氏  
 他十八名参拝
- 五月七日 氏子総代委嘱式
- 五月八日〜九日 九連総会  
 出席のため宮司、永友、  
 河野権弥宜熊本へ出向
- 五月十四日 総務事務次官  
 古橋源六郎氏他三名参拝
- 五月十七日 戸畑八幡神社  
 宮司波多野卓郎氏他三十  
 三名参拝

- 五月十九日 别当宮司先賢  
 慰霊祭
- 五月二十一日 氏子総代会  
 会
- 五月二十三日 崇敬者総代  
 会
- 五月二十九日 敬神婦人会  
 総会
- 六月一日 責任役員委嘱式
- 六月五〜八日 職員研修旅  
 行第一班日光方面へ出向
- 六月十二〜十五日 職員研  
 修旅行第二班日光方面へ  
 出向
- 六月三十日 大祓式



熊本国税局長参拝

# 大型駐車場完成

このたび念願の大駐車場が完成し、平成元年三月二十六日、日本晴れのなか多数の関係者が参列して竣工祭が斎行された。

日南市内より約十五キロ離れている当宮は、近くに鉄道が通っていないこともあり、バスや家用車の参拝が大半をしめている。しかし今までの駐車場の収容台数(県駐車場バス三十台、乗用車八十台、当宮駐車場乗用車八十台)では、初詣はむろんのこと連休等しげば国道まで車列の出来る有様であり、このままでは参拝者の減少につながりかねなく、交通上の見地から問題になりかねないため、一大事業として駐車場の建設に踏み出した訳である。しかし当宮は、日南海岸国定公園の風光明媚な所に鎮座しているため、環境保全上の問題もあり手続きに難航した。漸く新駐車場予定地を境内の森林内に定め、昭和六十三年十月二十五日、起工式を執り行ない工事に



舞楽「蘭陵王」

着手したが、地形の悪さが起因して思わぬ難工事となり、完成も予定より遅れ三月下旬となった。この新駐車場は約五千平方メートルの敷地を誇り、乗用車のみ二六〇台の収容能力をもつものである。このお陰で、黄金週間は両駐車場とも満車になったが、国道まで車列が出来ることもなく、おおいにその成果を発揮できた連休であった。



いさみ太鼓

## いさみ太鼓奉納

こどもの日の五月五日、恒例の「いさみ太鼓」を地元の子供たちが、午前十時より本殿に於いて奉納した。この日は生憎の雨にもかかわらず、朝早くから鵜戸潮両小学校の児童や近くの園児ら五十名が集まって来た。子供たちは、儀式殿にて揃いの鉢巻、法被に着替え、小学生はバチを、園児は鈴を手に持ち一時間程の練習をした。日頃バチ等持った事のない小学生ではあ

ったが、練習するにつれ、高学年は昨年までの感を取りもどし、低学年も漸くたけるまでになった。

黄金週間とあって、雨にもかかわらず参拝者は多く本殿の人集りを掻き別けて大前に整列。子供たちは少し緊張した面持ちであったが、「いさみ太鼓はじめませい」の掛声と共に、「ドドンコ、ドドンコ」と元気いっぱいのバチの音が一斉に響き渡り、息の合ったところを見せていた。本殿では、これに合わせ四体の子供獅子が勇壮に舞った。参拝者も、一生懸命に太鼓をたたき子供たちの姿に、しばし足を止め盛んにカメラのシャッターを切っていた。このいさみ太鼓は、昭和天皇御在位五十年を記念して十四年前に創作されたものである。当神宮下の荒磯に打ちつけ砕ける荒波の様子を大小の太鼓、横笛、鈴等で表現している。これに合わせて獅子舞を奉納し、鵜戸の大神様と祖先の恩とに感謝すると共に、子供たちの健康な成長を祈願して毎年こどもの日に行なっている。

## 編集後記

◎竹下総理大臣がリクルート問題で退陣を表明して以来、政局混迷のすえ漸く宇野新内閣が発足しました。国民の自民党への政治不振を回復するには難しいものがあると思いますが、期待していきたいと思えます。

◎大嘗祭のことについて当号に掲載致しましたが、来年に向けての活動が大変重要だと思えます。皆様のところでは、どのような活動をしていらっしゃるでしょうか。御連絡頂ければ幸いです。

◎昭和から平成へと新しい時代を迎え、朱印帳の記帳も「昭和」から「平成」へとかわり当初は書きづらかったようですが、今頃は字の形も整いはじめたようです。(中武)

